２．雲仙プラン１００（要約版）

UNZEN PLAN 100

雲仙プラン100

要約版

＊目 次

地域の概要――1
地域の現状と課題――1
経済動向や市場ニーズの予測――2
雲仙プラン１００とは――2
地域の強みと課題――3
島原半島と雲仙地域の相互関係の展望について――3
雲仙プラン１００基本理念――4
基本理念を実現するための将来像とそのための戦略――5
各戦略に基づく行動計画――5
推進体制――13
雲仙プラン100宣言――14

平成23年12月 雲仙プラン１００地域づくり委員会

●地域の概要

島原半島は面積約 460 ㎢、橘湾と有明海の間に突き出た半島で、約 15 万人の人々が居住しています。山から海までの垂直分布の中に変化に富んだ景観をはじめ、泉質の異なる温泉や湧水、人々の豊かな営みや歴史・文化など、多様で独自性の高い地域資源を有しています。

～雲仙天草国立公園雲仙地域について～

雲仙天草国立公園雲仙地域（以下、「雲仙地域」という）は、日本で最初に指定された国立公園であり、島原半島の中央部にそびえる普賢岳を中心に半島の３市にまたがって位置しています。火山景観を特徴とした優れた自然とともに既存の観光地や農耕地の景観も取り込んだ、地域の生活や生産活動と共存するタイプの国立公園です。

●地域の現状と課題

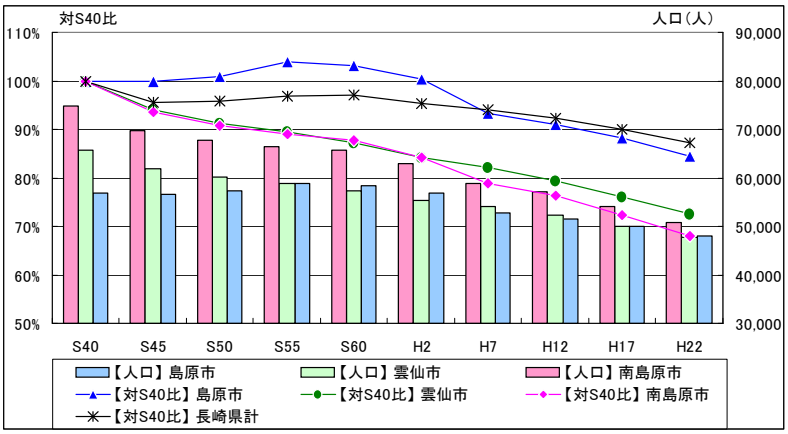
雲仙地域は、明治初期から戦前にかけて外国人の一大避暑地として賑わい、1934 年（昭和９年）３月 16 日に日本で最初の国立公園として指定され、高度経済成長期には国内でも有数の温泉地として団体客を中心に賑わいをみせていました。

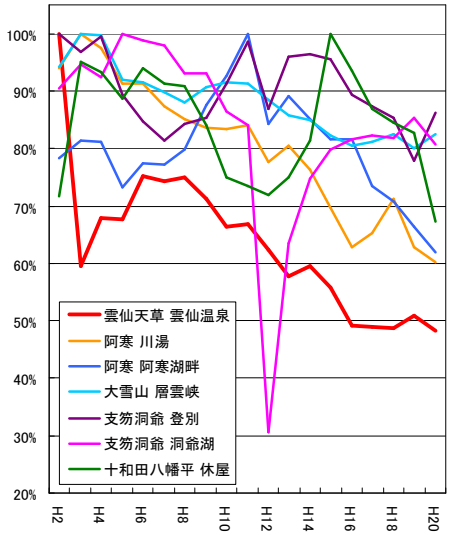
しかし、1990 年の普賢岳噴火に加え、その後の団体旅行の減少や、個人旅行のニーズへの対応の遅れなどから、観光客の大幅減少、利用拠点である雲仙温泉街の賑わいの消失、地域経済の疲弊、景観の悪化、人口の減少といった多くの問題を抱え続け、また、島原半島全体でみても今後は地場産業である一次産業の後継者不足、地域経済の停滞が予想されています。

こうした危機感の中、多くの計画・提案がなされてきましたが、多くは実現されずに、同様の提案が繰り返されるばかりで、未だ多くの地域資源が活用されないまま放置されているのが実状です。

しかし、日本初の世界ジオパーク認定をはじめ、広域滞在型観光圏づくりを目指した取り組みがはじまるなど、島原半島をとりまく新たな動きも活発化しつつあります。

《島原半島の人口推移》





《国立公園内主要集団施設地区の利用者数の推移》
（平成２年以降の過去最高年比）

●経済動向や市場ニーズの予測

・経済は低成長期が続く一方、社会の成熟化が進み、国民は、心の豊かさや生きがいを重視し、価値観も今以上に多様化すると予想されます。
・「一人一人の価値に基づく観光」の時代が到来し、「ほんもの」や「ふれあい」がより一層求められるようになると予想されます。
・災害や環境問題への関心の高まりにより、社会全体が「安全・安心」を求める意識が高まっていくと考えられます。
・東アジアとの連携が強まり、交流の増加が見込まれます。
・外国人（特にアジア）についても、日本の四季や伝統文化への関心が高まり、成熟した旅行客が増えることが見込まれます。

●雲仙プラン１００とは

このように、多くの課題を前に、一刻の猶予もない地域の状況と、世界経済や国民の価値観、観光客のニーズの大きな変化を前に、地域戦略の見直しが迫られていました。

こうした現状と危機感を共有し、その上で、力強く新たなスタートをきるため、ここに、国立公園指定 100 周年に向け、地域再生と国立公園再生のための将来ビジョンと、そのための具体的行動計画を示した中長期の地域再生行動計画「雲仙プラン１００」を策定しました。

本プラン策定にあたっては、専門家・行政機関・地域関係者からなる「雲仙プラン１００策定委員会」を設置するとともに、雲仙地域をはじめ島原半島からも多くの方々にご参加いただき、ワーキンググループを組織し、さまざまな分野について活発に議論を行いました。また、地域のあるべき姿を探るにあたり、地域住民を含め 2000 人以上を対象としたアンケート調査を行うことにより、幅広い意見を聞き取ることができました。

その中で、経済動向や市場ニーズはもちろん、今までの課題にも目を向け、島原半島の一体化、地域資源の活用、地域住民の主役化、豊かな自然や歴史・文化の掘り起こしとその保全・活用、地域と国立公園の連携や利用拠点同士のネットワーク化など、地域全体で一人一人が自ら考え知恵を出し合い行動する意識を醸成し、具体的行動を推進できるよう、実施主体と達成目標を明らかにした行動計画を作成し、それを推進するための体制づくりを行いました。

●島原半島と雲仙地域の強みと課題

本プランの検討にあたり、島原半島や雲仙地域がどういう地域であるかを認識し、共有できるよう、島原半島及び雲仙地域の強みと課題を整理しました。

	強み	課題
島原半島	・山から海までの垂直分布の中に、多様な地域資源がコンパクトにまとまった“陸続きの島” ・九州の中でも、特に自然と人の暮らしが育んだ、魅力（酪農林漁業、地場産品等）に溢れる地域であり、今後の利用者ニーズへの活用可能性が高い ・畏敬の念をもってお山（普賢さん）に向きあい、その恵に感謝する心が受け継がれてきた地域 ・自然や火山との共生を体感する体験型観光、自然エネルギーの活用等の自然の活用可能性が高い地域 ・「国立公園第一号」である雲仙を有する ・「世界ジオパーク」認定により「火山由来の地形・地質」や「人と火山の共生スタイル」が世界的価値となった ・九州の真ん中にあり、周辺に、長崎、佐世保、諫早、天草、阿蘇など、タイプの異なる観光地を有し、広域観光圏を形成しやすい地域 ・市町村合併、ジオパーク、観光圏、半島観光連盟の取り組み等により地域を包括する広域的な組織が生まれ、連携が模索されはじめている　等	・若者の流出、活躍の場の不足 ・地元の人の島原半島の良さに対する認識が不足し、地域資源を活かしきれていない ・避暑地として島原半島が広く利用されてきた特性や、「日本最初の国立公園」に指定された際の地域の結束力が活かされていない ・地域の誇りである国立公園ならではの自然とふれあえる機会を活かせていない ・島原半島の人たち同士の交流、相互理解が希薄であり、島原半島としての一体感の欠如 ・観光と地場産業の連携不足 ・島原半島外の観光地（長崎、熊本、阿蘇、湯布院、別府、平戸、佐世保、天草等）との交流、連携不足 等
雲仙地域	・日本八景、日本初の国立公園、日本初のリゾート地としての歴史 ・日本初の国立公園であり、国立公園を誇りに思い、活用していきたい意識が強い ・関係行政機関等の協力のもとに自然や景観が保全され、また、活用のための整備が進み、豊かな自然とふれあえる機能が充実している ・普賢岳を中心とした火山・自然資源（山、地獄、温泉）を気軽に楽しめる ・四季がはっきりし、九州の中でも涼しい山地型気候（涼しい夏、九州一の紅葉、雪・霧氷の冬） ・雲の上の空気感、静寂さ等の異空間でクリーンなイメージ ・伝統と行き届いたサービスによる、安心して泊まれる旅館ホテルが充実 等	・宿泊客、滞留時間の減少 ・観光地としての気軽さ、親しみやすさの不足や市場ニーズへの対応の遅れ ・商店・食・文化の魅力不足等、温泉街の街歩きを楽しむ要素の不足 ・戦略的情報発信、戦略的ブランディングの不足 ・気概、行動力、支え合う力不足 ・住民を含め地域全体で考え、地域主体で計画を実施する意識や体制が構築できていない ・地域一人一人が自らのこととして考え、知恵を出し合い、汗を流し行動する強い気持ちの欠如 ・雲仙の自然や島原半島の暮らしの魅力等豊富な地域資源を活かせていない ・島原半島地域との連携・一体感不足 ・全国の観光地や温泉地に埋没、国立公園としての知名度や存在感の低下 ・国立公園ならではの自然やつながりを活かし切れておらず、地域の雇用や産業との結びつきが希薄。また、そのことが、国立公園そのものの価値や魅力、訴求力の低下に拍車をかける悪循環に陥っている　等

●島原半島と雲仙地域の相互関係の展望

上記のような地域の強みと課題の整理から、島原半島の地域、産業、立場を超えて、相互理解を進め、島原半島と国立公園である雲仙地域が相互の特徴や強みを活かすことで、互いに際だたせる関係を築き、協力して地域内外に情報を発信するとともに、島原半島周辺地域との連携を図り、それぞれの役割を積極的に果たしながら、一体となって地域を元気にしていくことが重要であると考えました。

その展望を踏まえ…

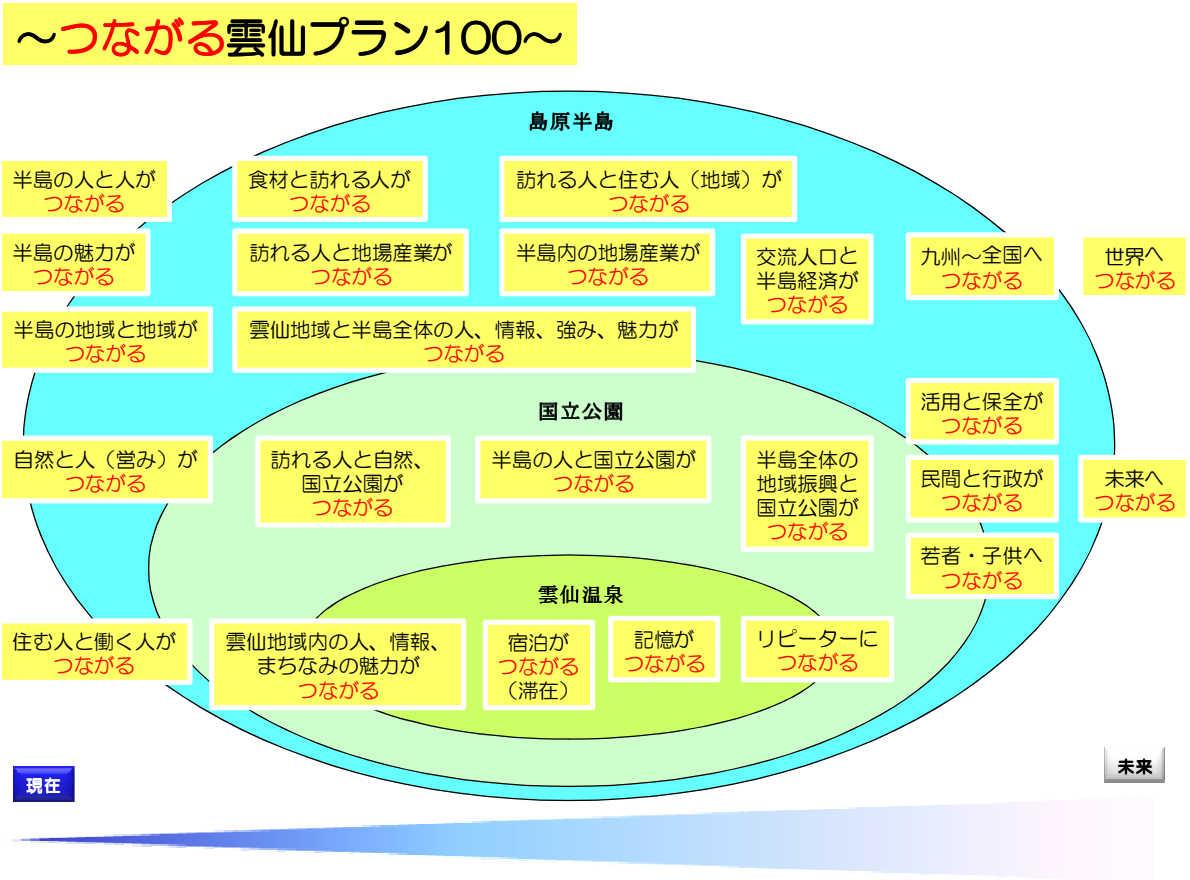
●雲仙プラン１００基本理念

「つながる」

・自然と人、人と人、地域と地域が豊かな関係（つながり）を築き、美しく元気な郷土を未来の子どもたちへ伝える（つなげる）。

・国内外から人が訪れ（国内外からの来訪者と地域の魅力がつながり）、訪れた人も、住む人も、働く人も、みんなが満足度 100%で元気になれる（笑顔でつながる）地域を目指す。

としました。



●基本理念を実現するための将来像とそのための戦略

将来像

将来像実現のための戦略

基本理念「つながる」

島原半島

＊暮らしの魅力に溢れた美しく豊かな島原半島
＊地場産業の活性化した島原半島
＊交流、体験、学習の場となる島原半島
＊半島の魅力をめぐり長期滞在を楽しめる島原半島
＊多くの交流人口を迎え地域経済が盛り上がる島原半島

互いの特徴・強みを活かし、
互いに際だたせる関係を築き、
一体となって地域を元気に！

雲仙地域

【国立公園】
●自然と人、人と人、地域と地域をつなぐ国立公園
●島原半島全体の地域振興に活用される国立公園
●島原半島全体で保全再生に取り組む国立公園
＊地域から求められ支えられ誇りとなる
「協働型国立公園」

【国立公園内の利用拠点】
＊自然と人、人と人、地域と地域をつなぐ拠点となる

【雲仙温泉】
●国立公園ならではのアクティビティーが充実した雲仙温泉
●島原半島の魅力を紹介し、周遊・滞在へと誘う雲仙温泉
●人と地球に優しく、まちと人が輝く「忘れられない」雲仙温泉
＊ゆっくり癒される長期滞在型、国際観光地、
「雲の上のトレッキングスパリゾート」

戦略 1
島原半島が一体となった取り組みの強化

戦略 2
雲仙地域の自然資源の保全・再生・継承

戦略 3
人と地球にやさしい、安全・安心な国立公園・観光地の実現

戦略 4
地域の恵みを活かしたゆっくり癒され楽しめる滞在型国立公園・観光地の実現

戦略 5
持続可能な推進体制の構築

●各戦略に基づく行動計画

各戦略に基づく行動計画を次に示します。これらは、いずれも、雲仙プラン１００の基本理念と将来ビジョンを実現するために、23 年後の将来を見据えながら、継続的に取り組んでいくものです。そこで、具体的活動を継続・発展させていくとともに、概ね５年ごとに、進捗状況や成果の確認・評価を行い、その時の地域や社会経済、市場の動向を見極めながら行動計画を点検し、次の５～10 年の行動計画並びに達成目標を検討・見直しながら将来ビジョンを実現していきます。

戦略１　島原半島が一体となった取り組みの強化

島原半島が一体となって交流や相互理解を促進するとともに、相互の特性を活かし、自然や地場産業を活用した交流・体験プログラムを実施し、島原半島全体の交流人口を増やすために、最大限雲仙地域が出来ることに取り組む。

１－１ 相互理解の促進
- あるもの探しの実施
- 半島フェノロジーカレンダーの作成・活用／島原半島写メコンテストの継続・情報共有／子ども向けあるもの探しや半島を知る教育教材づくり、アクティビティーやイベントへの活用

１－２ 連携による地場産業の 活性化
- 自然・地場産業等を活かしたエコツーリズム、グリーンツーリズム、ブルーツーリズム、ジオツーリズム等の推進
- 地域の特性を活かした地産地消の促進

１－３ 半島を楽しむしかけづくり
- ＜再掲＞自然・地場産業等を活かしたエコツーリズム、グリーンツーリズム、ブルーツーリズム、ジオツーリズム等の推進
- 半島周遊コースづくり
- ツアーデスクの設置、一元的情報発信
- 火山との共生の学習や防災学習の推進、修学旅行への活用
- 半島が一体となったイベント
- 半島アクセス網の強化：乗り継ぎ情報の発信、交通ダイヤの調整、乗り継ぎ情報のアナウンス、交通機関内の観光案内／シーニックポイントやシーニックルートのサイン整備／九州自然歩道のブラッシュアップ／地域内交通の充実

１－４ 半島資源の保全・継承
- ＜再掲＞自然・地場産業等を活かしたエコツーリズム、グリーンツーリズム、ブルーツーリズム、ジオツーリズム等の推進
- ＜再掲＞火山との共生の学習や防災学習の推進、修学旅行への活用
- 半島全体クリーンアップ作戦／間伐促進や森の健全化、耕作放棄地や棚田の手入れ・修復への協力／＜再掲＞子ども向けあるもの探しや半島を知る教育教材づくり、アクティビティーやイベントへの活用

１－５ 半島が一体となったマーケティング、ブランディング、戦略的情報発信
- 半島が一体となったマーケティング
- 半島が一体となったブランディング
- 半島が一体となった地域外への戦略的情報発・PR

○相互理解の促進
○連携による地場産業の活性化
○半島が一体となったイベント
○半島が一体となった情報発信

○「あるもの探し」の実施

○エコツーリズム等の推進
○ツアーデスクの設置、一元的情報発信
○半島周遊コースづくり

※イラストはイメージです。

（次頁以降同様）

戦略２　雲仙地域の自然資源の保全・再生・継承

国立公園第一号に指定された雲仙地域の自然や景観を、行政だけでなく、地域住民や様々な事業者、エコツーリズムやグリーンツーリズムを通じて訪れた人の参加・協力も得て、地域全体で保全・再生し、未来の子どもたちに継承する「協働型国立公園」を目指す。

2－1
国立公園をはじめとした雲仙の自然資源の保全・再生・継承

- アクセス道路の景観改善
- 国立公園の保全・活用　公園・管理計画の見直し／国立公園の協働型管理運営の実現
- ミヤマキリシマの保全再生
- 山岳保全管理の促進　登山道の景観改善
- 原生沼の再生
- 温泉の保全、持続活用
- 雲仙遺産計画

○アクセス道路の景観改善
○登山道の景観改善

○協働型管理運営の実現
○ミヤマキリシマの保全再生

戦略３　人と地球にやさしい、安全・安心な国立公園・観光地の実現

雲仙地域の地熱や、島原半島の長い日照時間等の特性を活かした自然エネルギーの活用や、仁田峠のパーク＆ライドの実施等による環境配慮型の観光地づくりを目指す。また、島原半島の地元の食材や材料を活かした生産者の顔がみえる食や商品を提供するとともに、訪れる誰もが心地よく過ごせるためのユニバーサルデザインの導入等、安全・安心な観光地づくりを目指す。

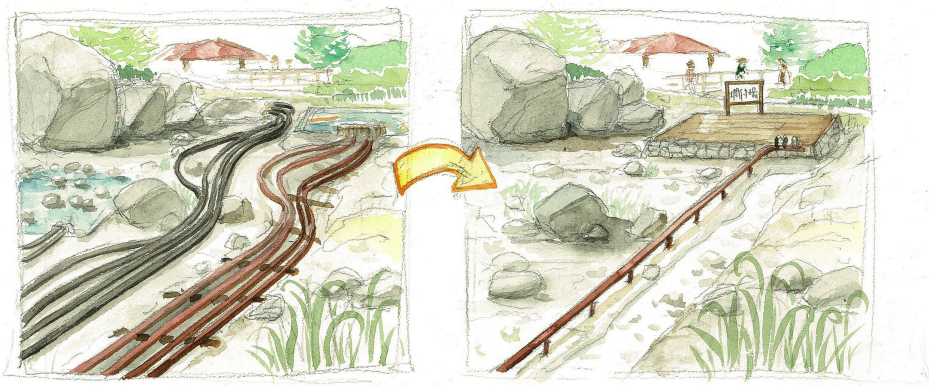
３－１
環境・景観に配慮した取り組み・循環型まちづくりの促進

- 棚付けのエコ化と地獄景観の改善
- 自動車交通のエコ・安全化
- 雲仙温泉街の景観のあり方の検討、設定
- 自然エネルギー活用（CO2排出抑制）推進による循環型まちづくり
- 牧羊による放牧・草原景観の維持
- 使った資源（水・空気）を綺麗にして自然に返す

３－２
安全・安心な食、商品、サービスの提供及びまち歩きのための整備

- ＜再掲＞地域特性を活かした地産地消の促進
- ＜再掲＞ 自然・地場産業等を活かしたエコツーリズムやグリーンツーリズム、ブルーツーリズム、ジオツーリズム等の推進
- ＜再掲＞火山との共生の学習や防災学習の推進、修学旅行への活用
- おもてなしの心による安全・安心の国立公園・観光地づくり
  - おもてなし力の向上／雲仙に誇りを持ち訪れる人に伝えられる観光地づくり／ユニバーサルなおもてなしの促進／ユニバーサルなデザインの導入
- 緊急時の迂回道路の確保

〇棚付けのエコ化と地獄景観の改善
〇自然エネルギー活用（CO2 排出抑制）による循環型まちづくり



〇おもてなしの心による安全安心の国立公園・観光地づくり
〇ユニバーサルなおもてなしの促進
〇ユニバーサルなデザインの導入

〇自動車交通のエコ・安全化
〇雲仙温泉街の景観のあり方の検討、設定
〇緊急時の迂回道路の確保

戦略４　地域の恵みを活かしたゆっくり癒され楽しめる滞在型国立公園・観光地の実現

半日～１泊の滞在延長を目指すところからはじめ、最終的に１週間以上の長期滞在にも対応できる、地域の恵みを活かしたアクティビティーやガイドの充実、各利用拠点の機能強化と連携強化、街あるきをしたくなる湯めぐり等の仕掛けや各商店・飲食店の魅力向上、温泉街としての空間のブラッシュアップ等を実施し、ゆっくり癒され楽しめる「雲の上のトレッキングスパリゾート」を目指す。

４－１
自然を楽しむ新たな仕組み・仕掛けづくり

- 地獄・温泉の魅力向上
- 白雲の池・絹笠山の魅力向上
- 山の魅力向上
  - 山の魅力を活用したアクティビティーの充実
- 自然を活かした環境学習やイベント、修学旅行への活用
- 放牧風景の復活・活用
- 島原半島と連携した島原半島湯めぐりの実施／稚児落としの滝の復活／一切経の滝プールの復活／
  植物の有効活用(酵母、漢方等)／魅力的で、訴求力の高いアクティビティーの検討、実現／
  最先端技術を活用し、映像や音を活用した魅力の向上

４－２
雲仙地域内の利用拠点の機能強化と連携強化

- 各利用拠点の機能強化
- 各利用拠点と周辺地域の連携強化
- 各利用拠点の役割分担と連携強化
- 利用拠点間の回遊性を高める経路の整備

＜利用拠点の機能強化と役割分担と周辺地域の主な対象のイメージ＞
例：雲仙集団施設地区、諏訪の池集団施設地区、仁田峠、垂木大地、田代原、論所原

○地獄の魅力向上

○山の魅力の向上
○山の魅力を活用したアクティビティーの充実

○白雲の池の魅力向上

○利用拠点の機能強化と連携強化

- 4－3 歩きたくなる街づくり
  - 歩いて楽しいしかけづくり　歩いてもらうしくみづくり／街の魅力を活用した楽しみづくり
  - 雲仙・島原半島らしさに裏打ちされた「ほんもの」の魅力ある温泉街づくり
  - ＜再掲＞おもてなし力の向上
  - 雲仙温泉中心地リフレッシュ整備
  - ＜再掲＞ツアーデスクの設置、一元的情報発信
- 4－4 長期滞在に対応できる宿泊環境づくり
  - 宿泊施設におけるコンシェルジュ機能の強化
  - 連泊者向けサービスの強化
  - 長期滞在向けプランの強化

○歩きたくなる街づくり
○歩いて楽しいしかけづくり
○「ほんもの」の魅力ある温泉街づくり
○雲仙温泉街の「島原半島のショーウィンドウ化」

○ツアーデスクの設置、一元的情報発信

戦略５　持続可能な推進体制の構築

雲仙プラン１００にある各行動計画の実現には、多くの組織や個人がかかわり、それらが相互に協力してはじめて、具体的取り組みが成り立つものである。このため、プラン実現に向けた持続可能な推進組織を設置し、行動計画の実現のための各種調整や推進の支援、プランの進捗評価・見直し、必要な人材育成等を行う。また、実現したものをより効果的に訴求させる戦略的情報発信や、プランの見直しを行うためのマーケティングやブランディング等を繰り返し行う。

５－１
推進組織づくり・継続・発展

- 推進組織の構築・運営
- 地域内の情報共有（収集、発信）
- 知恵とアイデアの共有
- 活動報告会の開催
- 達成状況や成果評価のためのアンケート調査の実施
- 5年ごとの雲仙プラン100の行動計画の見直し
- 高等教育機関との連携

５－２
雲仙人の育成（人材育成）

- ＜再掲＞おもてなし力の向上
- ＜再掲＞雲仙に誇りをもち、訪れる人に伝えられる観光地づくり
- 研修・勉強会の開催
- 半島外の地域や組織との連携／20年後の雲仙・島原半島をテーマにした懸賞論文の一般公募

５－３
雲仙地域のマーケティングとブランディング強化と戦略的情報発信

- 雲仙地域のマーケティング強化
- 雲仙地域のブランディング強化
- 地域外への戦略的情報発信・PR

○地域内の情報共有、知恵とアイデアの共有
○達成状況や成果評価のためアンケート調査の実施
○５年ごとの雲仙プラン１００の行動計画の見直し
○マーケティング、ブランディング、戦略的情報発信

○おもてなし力の向上
○雲仙に誇りを持ち、伝えられる観光地づくり
○研修・勉強会

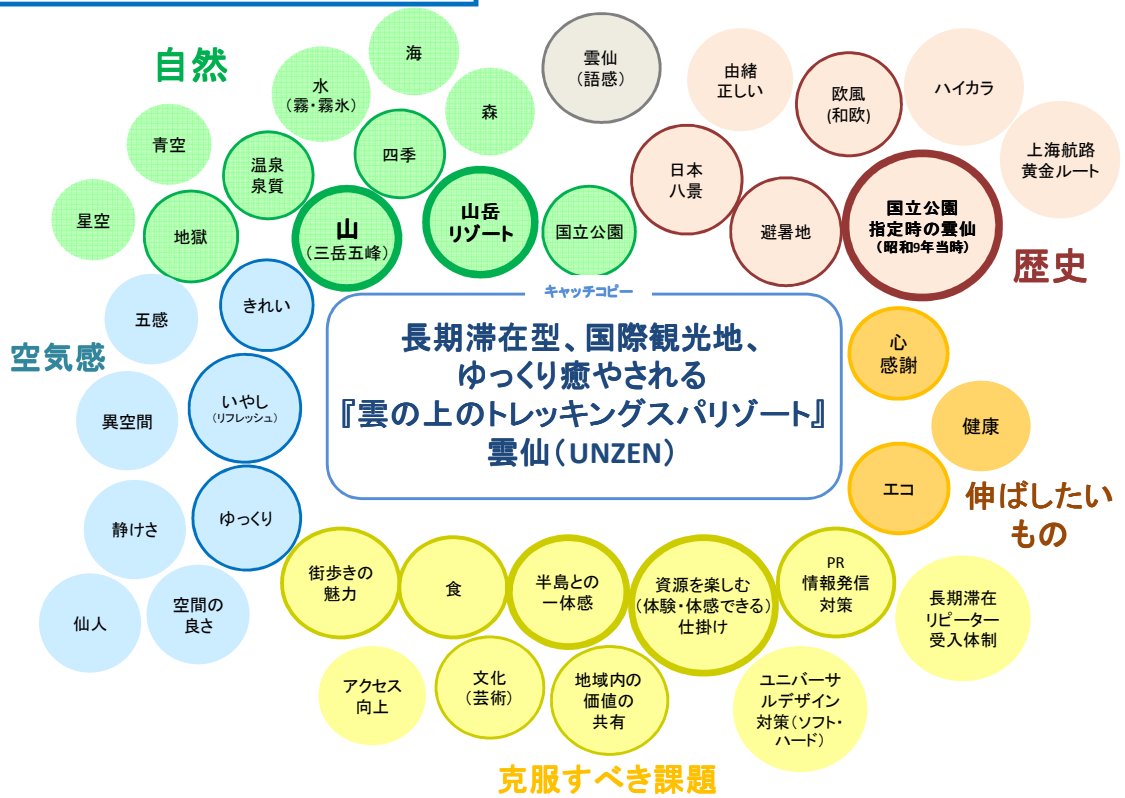
ブランディングのイメージ

雲仙地域の利用拠点の中でも中核としての役割が期待される雲仙温泉のブランディングとして、まず地域ならではの一押し資源を抽出しブラッシュアップすべきカテゴリーを設定、そのうえで目指すべき将来像を検討し「雲仙の目指すところ」を整理しました。

雲仙温泉及び周辺の一押し資源整理一覧 → ブラッシュアップすべき個別資源が見えてくる

資源カテゴリー		自然			街	その他
		山（トレッキング、散策資源）	地獄	温泉	街並・施設	その他
歴史	今も昔(少なくとも江戸期ぐらいから)も、これからも変わらない資源	冷涼な気候 紅葉・ミヤマキリシマ・シロドウダンツツジ・ヤマボウシや渡り鳥など季節の動植物 霧、花ぼうろなどの自然現象	硫黄の匂い 湯けむり 地熱 各地獄の名前 地獄の移動	日本でも有数の泉質 （硫黄泉、メタケイ酸） 共同浴場	地獄のすぐそばという立地 雲仙温泉街＝山の上の孤立した集落 温泉神社と満明寺（分祀前からの歴史を考慮）	星空
	今後（現在整備中）	新規登山ルート			湯川整備	
	現代①（噴火以降）（1990～2011）	ジオパーク さるふぁガイド 田代原トレイルセンター 平成新山 普賢岳噴火	さるふぁガイド エコタツ	足湯 指湯	おもちゃ博物館 ファサード整備 ビードロ美術館 森の美術館など文化施設 お山の情報館諏訪の池ビジターセンター スパハウス	食（雲仙レモネード、雲仙カレー、ピロッケ、他） イベント（花祭り、あかりの花ぼうろ、他）
	現代②（1941～1989）	ロープウェイ 宝原園地 諏訪の池国民休暇村 仁田峠自動車道 九州自然道など散策道 登山道整備	遊歩道 キリシタン碑 欄付け	立ち寄り湯 各旅館、ホテルの温泉施設 共同浴場	環境公園ビジターセンター カトリック教会 欄付けによる暖房 馬車 旅館ホテルの大型化（総合的観光施設化） 国立公園指定による規制	日本人客最盛期90万泊（1976） 食（温泉玉子、メガネ菓子、他） イベント（はだしで遊ぼう、他） 映画ロケ（「君の名は」他） 著名人の来雲仙 GHQによる旅館ホテルの接収 日本軍による旅館ホテルの接収
	避暑地時代（1869～1941くらい）	国立公園指定による保護 サンセットヒル（絹笠山） ロッキーヒル（高岩山） 外国人の登山客 一切経の滝プール 白雲の池 牧羊 登山道整備 ホテルから馬で各場所へ出向く チェア籠	国立公園指定による保護	新湯の開発 小地獄の開発 共同浴場 洋人風呂という一人のみの入浴する浴槽で外国人客の獲得	国立公園指定による規制 洋式ホテル 和風、和洋折衷の木造建築の旅館ホテル ゴルフ場 テニスコート 娯楽場 乗馬クラブ 国道	雲仙焼 食（湯せんべい、らむ中、凍り豆腐、他） 外国人宿泊数最大時、 年間約3万5千泊（1927と1933） 国立公園指定（1934） 日本八景指定（1927） 日本初の県営公園指定（1911） 著名人の来雲仙 欧米人避暑地（上海辨開） ロシア人避暑地（1922年大恐慌と露政権安定まで、日露戦争時を除き、ロシア人多い）
	キリスト教・島原の乱時代と江戸時代（1575～1869くらい）	外国人入山の禁止 山留役による温泉山の自然保護 島原大変 金比羅山（コンピサン）	お糸地獄 殉教（地獄責め） 小地獄の噴出	外国人入山（入浴）の禁止 延暦湯＝古湯（湯治場） 湯守加藤氏 湯小屋	湯治場の小規模な村落 湯治宿	温泉四面宮に島原半島全域から参拝者
	修験道時代（701～1575くらい）	稚児落としの滝 大果天 一切経の滝 行基洞 普賢岳（行者道）	満明寺の境内地 僧坊による地獄巡り（各地獄の名前）	湯治場?	大乗院（満明寺）の繁栄 真言密教の修験道場 満明寺行基開山（温泉山＝うんぜんざん）	真言宗の三大寺のひとつ 女人禁制 白雀の乱 肥前国風土記（高来山）
	古代（～700）	普賢岳の形成（約7000年前）	地獄の移動 （旧八万→新湯）		別所の住居跡（約8000年前）	
	有史前	断層（九千部岳、吾妻岳） 崩壊カルデラの外輪山（妙見岳、国見岳）	地獄の移動 （原生沼→旧八万）			

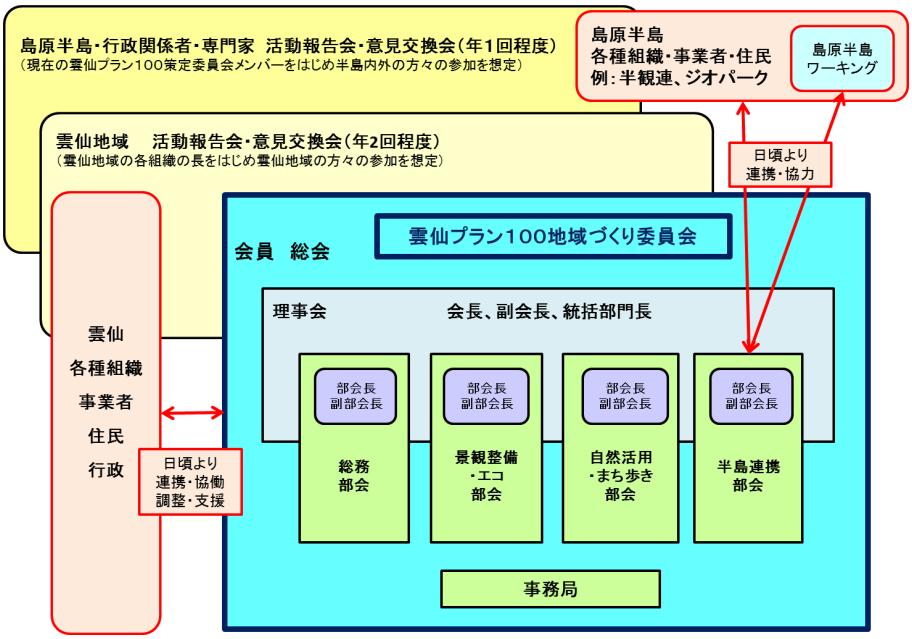
「雲仙温泉の目指すところ」



●推進体制

雲仙プラン１００の各行動計画の推進について、地域が主導し、地域全体がかかわり、一人一人が自ら考え知恵を出し合い役割を果たしながら行動できる体制とするため、各行動計画を進めるための中間支援組織として、「雲仙プラン１００地域づくり委員会」を立ち上げ、その中に４つの部会を設置します。

本委員会は、自らも行動計画を推進しながら、同時に、雲仙プラン１００を指針として、多くの関係組織、事業者の皆様が自ら動いていただくことを念頭に、その実施者をはじめ、関係する雲仙地域や島原半島の様々な行政や諸団体、事業者や個人等と連携・協働することで中間支援機能を果たし、雲仙プラン１００の実現に向けた取り組みを推進します。



推進体制のイメージ図

戦略１～５の幅広く多岐にわたる行動計画について、確実に推進していくため、まず着手する行動計画を絞り込み、重点的に取り組みを進めることで、雲仙プラン１００の実現性を高めます。

まず、着手する行動計画のカテゴリー10

① 島原半島あるもの探しの実施（相互理解の促進）
② 島原半島フェノロジーカレンダーの作成・活用（島原半島への誘いと地産地消を目指して）
③ アクセス道路の景観改善（具体的行動が見えるところから）
④ 棚付けのエコ・一元化と地獄景観の改善
⑤ 仁田峠パーク＆ライドの実現に向けた取り組み（実証実験から本格実施に向けて）
⑥ 牧羊による放牧・草原景観の維持
⑦ 山のアクティビティーの充実
⑧ 雲仙全体（旅館、商店、飲食店等）の連携によるまち歩きの促進
⑨ SNS（Facebook 等）や広報誌「雲仙 ING」を活用した情報共有と情報発信の強化
⑩ 雲仙や島原半島を知り伝えられる雲仙人の育成

雲仙プラン100宣言

外国人の一大避暑地や国内有数の温泉地としての賑わいは影をひそめ、雲仙地域は今、観光客の減少、地域経済の疲弊、景観の悪化、人口の減少といった多くの問題を前に、転換期を迎えています。
今こそ、力強く新たなスタートをきるため、ここに、国立公園指定100周年に向け、地域再生と国立公園再生のための具体的なビジョンと行動計画を「雲仙プラン100」としてとりまとめました。

地域の一人一人が自らのこととして考え、知恵を出し合い、汗を流し行動するという強い気持ちを忘れず、オール雲仙で取り組みます。そして、島原半島の地域、産業、立場を越えて相互理解を進め、感謝と笑顔を忘れず、互いに際だたせる関係を築き、一体となって地域を元気にしていきたいと思います。

私たちは、自然と人、人と人、地域と地域の豊かな関係を築き、美しく元気な郷土を未来の子どもたちへ伝えます。
そして、国内外から人が訪れ、訪れた人も、住む人も、働く人も、みんなが満足度１００％で元気になれる地域を目指します。

島原半島が、交流、体験、学習のメッカとなり、半島の魅力をめぐる長期滞在が楽しめ、多くの交流人口を迎え、半島の地場産業が活性化し、暮らしの魅力に溢れた美しく豊かで元気な郷土となるため、積極的にその役割を果たします。

国立公園として、島原半島全体の地域振興に活用され、また、島原半島全体で保全再生に取り組む国立公園となり、地域から求められ支えられ誇りとなりうる「協働型国立公園」を目指します。

国立公園ならではのアクティビティーが充実し、島原半島の魅力を広く紹介し、周遊・滞在へと誘い、人と地球に優しく、まちと人が輝く「忘れられない」、長期滞在型、国際観光地「雲の上のトレッキングスパリゾート」を目指します。

今日は、未来に向かって走り出すスタート地点です。目指すゴールまでには、多くの皆様のご理解とご協力が不可欠であり、ともに考え、汗を流し、支えあう仲間が必要です。たくさんの方々と、情報と思いを共有し、アイデアと意見を交換し、学び、励まし合いながら、今日より明日、明日より明後日と小さな足取りかもしれませんが、決してあきらめず、楽しみながら続けていきたいと思います。

つながろう 雲仙温泉！　つながろう 島原半島！　つなげよう 未来へ！

平成23年12月11日
～みんなで考え みんなで行動し みんなで支え合う～
雲仙プラン100地域づくり委員会

つながろう
雲仙温泉

つながろう
島原半島

つながろう
未来へ

UNZEN PLAN 100
雲仙プラン100 要約版

平成23年12月発行　発行者　雲仙プラン100地域づくり委員会
事務所　〒854-0621 長崎県雲仙市小浜町雲仙320　社団法人雲仙観光協会内
Tel 0957-73-3434　Fax 0957-67-2261

概要版を読んで詳細を知りたくなった方のために、雲仙プラン１００(詳細版)や参考資料データはコチラ　http://www.unzen.org/plan100/index.html(「雲仙プラン100プロジェクト」ホームページ)